

## 「カンボジア大規模アンケート調査報告：ドル化から見える政治・経済の実相」

### 要旨

奥田英信

カンボジアは、2000年代以降、東南アジア地域において最も成長率が高い国となっています。勿論、カンボジアの一人当たり所得は未だ非常に低く、政治・経済制度の整備も周辺国に後れを取っているのは事実です。また国土面積も狭く、人口も多いとは言えません。しかし両隣のタイとベトナムからのスピルオーバー効果や、若年層が多く人口増加率も高いことなど、今後の経済成長の好条件も多く、直接投資も順調に流入が続いています。

カンボジアは、輸出志向的な工業化を経済発展の原動力とし、国際貿易や直接投資を成長の鍵としている点で、他の東南アジア諸国と共通です。そのカンボジアにおいて、他国と異なる最大の特徴的は、金融資産の90パーセント以上がドルであるという、世界的に見ても極めて高い「ドル化 (dollarization)」にあります。「どうしてこんなドル化が実現してしまったのか？」という点を切り口に、カンボジアの政治・経済の最も根本的な部分を、多面的に考えたいと思います。

前半の研究報告では、次の4氏から、カンボジアの政治・経済情勢とドル化の現状が紹介されます。これらの報告を通じて、カンボジアのドル化経済の成り立ち、金融・経済・政治の絡み合い、カンボジア中央銀行-JICA共同調査による「ドル化の実態」が紹介されます。さらに6月4日に開票されたカンボジア地方選挙の状況についても取り上げられるかもしれません。

報告1. 山田裕史氏「ポル・ポト政権後のカンボジア政治」

報告2. SAMRETH Sovannroeun氏「ポル・ポト政権後のカンボジア経済発展」

報告3. 小田島健氏「NBC-JICA共同調査の第1次調査結果」

報告4. Lam Roviay氏「マイクロファイナンスを巡る政治経済情勢」

後半のパネルディスカッション（司会、奥田）では、報告者全員での討議の後、フロアからの質疑応答を受けたいと思います。ディスカッションの討論課題については、「カンボジア経済と政治にとってのドル化の意味」、「ドル化は成功か失敗か」、「今後の展望」といったものを考えています。これらは飽くまで討論の切っ掛けで、フロアを含め活発な討議を期待しています。